



小中一貫教育だより

学校教育課・教育センター版

令和2年5月29日 No.18

(小中一貫教育推進だよりから 通算No.89)

十日町市教育委員会学校教育課



まつのやま学園 つくし総会 ※P 6 で説明

アフターコロナにおける「学校の新しい生活様式」

子育て教育部長 樋口幸宏

新型コロナウイルス感染に関し、5月14日新潟県を含む39県への緊急事態宣言が解除されました。十日町市では、これを受け5月18日から順次段階的に各種公共施設の再開を始めています。

十日町市立学校においては、県内ではいち早く5月7日から学校を再開し、5月21日からは、部活動も段階的に再開を進めています。

ただし、安倍総理は39県への緊急事態宣言の解除に際し、「ここからコロナの時代の新たな日常を取り戻していく。今日はその本格的なスタートの日だ。」と語り、手洗いの徹底やマスクの着用、身体的距離の確保、いわゆる「3密」の回避などを徹底する「新しい生活様式」の実践を求めています。

5月14日付け文部科学省通知においても「この新型コロナウイルス感染症とともに生きていかなければならないという認識に立ちつつ、子供たちの健やかな学びを保障することとの両立を図っていくことが重要」として、指導方法の柔軟な見直しを求めています。また、柔軟な対応が可能となるよう、ICT環境の整備も必要としています。

今回の臨時休業では、一部の学校におけるオンライン授業が、数多くマスコミに取り上げられました。市内でも一部の学校で検討がなされています。

十日町市は、6月の市議会において、国のGIGAスクール構想に基づく学校のICT事業予算を提案する予定です。全29校内に高速通信ネットワークを張り巡らし、全児童生徒1人1台のタブレット端末約3,500台などを今年度内に整備する予定で、来年度以降もソフト・ハードの整備を継続する計画です。

私自身、全員の児童生徒がタブレット端末を1台ずつ持っていたら、学校生活がどのように変わってくるのか、どんなことが可能になるのか、まだまだ想像できていませんが、とても大きな可能性があることは感じています。

最近、「コロナ後の世界(アフターコロナ)」という言葉をよく聞きます。コロナ後の『学校の新しい生活様式』の風は、学校の色々な活動に関して、物凄いスピードで学校や教育委員会に吹くものと思います。

これをぜひ追い風として捉え、子どもたちの教育環境の改善を進めたいと思っています。

小中一貫教育より

■ 子どもたちの「安全・安心」と「学び」を第一に考えた取組を

各学校では、新型コロナウイルス感染防止のため、昨年度末からこれまで様々な対応を検討し、教育活動を進めてこられたことに感謝します。市教委としても第1回小中一貫教育中学校区訪問を中止としました。そのため、各中学校区では昨年度の成果と課題を踏まえ令和2年度の計画を作成し、「3密」を避けた対応により取組のスタートを切らせてもらいました。

しかし、「3密」の回避や「新しい生活様式」の取組により、当初計画していた児童生徒の交流活動ができず、残念な思いをしている学校や児童生徒も多いことと思います。

本当に残念なことです。今は子どもたちの安全・安心と学びを第一に考えた取組をお願いします。交流活動等については、今は実施に向けた準備期間と捉え、「居場所づくり」「絆づくり」の視点から準備を進めておきましょう。

■ 共通取組事項「自己有用感」を高める取組 3年目(検証の年) ＜夏季休業中に 中学校区単位での研修会を予定＞

子どもたちの学びは、楽しく・分かる授業が大切です。その際、小中一貫教育では、下記の共通取組事項「自己有用感」の視点を考えることが、楽しく・分かる授業につながり、市の3つの共通課題「学力向上」「不登校の減少」「特別支援教育の充実」の解決につながると考えています。

＜共通取組事項＞

○中学校区小中一貫教育の取組活動及び各学校の教育活動に「自己有用感」を高める具体的指導(支援)を組み込む。

十日町市内小中学校の3つの課題の克服



今年度から夏季休業中の中学校区合同教職員研修会は隔年実施とし、今年は各中学校区単位で自己有用感にかかわる研修会等を開催(予定)し、3年目の検証に繋がりたいと考えています。下記等を参考に自己有用感を高める視点を踏まえた取組をお願いします。

■ 自己有用感を高める具体的指導(支援) 教師の日々の心がけ 5のポイント

自己有用感とは、「集団の中で、自分が必要(大切な存在であることを自分自身で認識すること)」です。

そのために授業や活動では、教職員が子どもたちの自己有用感を高めることを意識した日々の心がけが大切です。そのヒントとして今年度右記の「5つのポイント」を作成し、校長会・教頭会で紹介しました。

日々忙しい中ですが、授業や活動を行う際に、1つでも意識してみてください。その積み重ねが子どもたちの姿に必ず現れてくると信じています。

自己有用感を高める具体的指導(支援)のために
十日町市教育委員会子育て教育部
学校教育課事務局

●自己有用感とは(参考:国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導センター「[uf.2]」等)
キーワード:「役に立っている」「認められている」「必要とされている」
①存在感:他者の存在を前提として自分の存在を
感じること
②貢献:他者の役に立ちたいという成就感
③承認:他者に必要とされているという満足感
分りやすく言えば
「集団の中で、自分が必要(大切な存在であることを自分自身で認識すること)」
参考:「自尊感情」は自己に対して肯定的な評価を抱いている状態をいう。

自己有用感を高めるための具体的指導(支援)の
教師の日々の心がけ 5のポイント

＜絆づくり＞に向けて ……「自然な思いや行動」を育てる

- ＜絆づくり＞子どもが主眼。主体的に取り組む共同の活動を通して、児童生徒らが「絆」を感じ取り、絆を築いていく。安心感のある場所で児童生徒が自身で「絆づくり」を進める。
- 児童生徒が主体的に取り組む(主体的な学び)共同の活動を心がけよう。
☆少し頑張れば(少しの支度)でできそうな課題(最近得意な)の設定
・具体的なテーマに基づき話し合い、主体的なグループ活動など
 - 児童生徒に寄り添い認め、励ます言葉をかけよう。
☆自分づくり:自分のよさを知り、自信をもって行動できる。
・自然な思いや行動を生かす。
・自己決定の場、自己評価の場を設定する。
・結果より過程のがんばりを認める。
 - 「人(他の児童生徒)とかわかることは楽しい、かわかりたい」気持ちを育てる
絆を築く大切にしてほしい。
☆友達づくり:相手のよさを思いやり、相互理解を深める。
・かわかる楽しさ、喜び、大切さを体験(一人では出来ない)する。
・自分から動き掛け、進んで協力し、誰かの役に立つ。
・認め、認められる。大切に、大切に。

＜居場所づくり＞に向けて

- ＜居場所づくり＞教師が主眼。児童生徒が安心できる、自己存在や充実感を感じられる場所を作り出す。教職員が児童生徒のためにそうした「居場所づくり」をすすめる。教師は黒子の役になる。
- 「教師が育てる」場から「子どもが育つ」場づくりを心がけよう。
☆意図的な交流の場設定(授業、各種活動、異学年)・繰り返し継続
・その中で、「誰か」の場や仕方を工夫する。
 - ルールづくりと一貫した指導を心がけよう。
☆ルールの意図の明確・めあてやルールの提示(指定制)
・望ましい例を示し、定期的な振り返りを行う。

教育相談班より

■新型コロナウイルス感染予防対策のため、規模を縮小して実施

「第1回教育支援員研修会」

4月6日（月）、「第1回教育支援員研修会」を千手中央コミュニティーセンター2階集会室で行いました。本来であれば市内全ての教育支援員が出席しての研修会を行うはずでしたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、教育支援員の経験のない方を対象に1時間程度の研修としました。「3密」を避けながら、市職員として心がけるべきサービス・勤務のあり方、教育支援員の役割、子どもの特性と対応等について理解を深めました。研修後のアンケートには、「大変分かりやすく指導をいただくことができた。」「時間が短く、もっと話を聞きたかった。」「いろんな子どもたちに寄り添って支援できるように頑張りたいと思った。」等の感想があり、有意義な研修になりました。

「第1回特別支援教育研修講座」

4月30日（木）には、千手中央コミュニティーセンター「千年の森ホール」を会場に「令和2年度第1回特別支援教育研修講座」を開催しました。これも新型コロナウイルス感染防止対策で例年と異なり、2時間の研修を30分縮めると同時に、各校の特別支援教育コーディネーターに特別支援教育実践にかかる就学支援や通級指導教室等の重要な手続きの説明を行いました。



今後は、新型コロナウイルス感染防止への配慮を継続しながらも、研修の充実を図って行く予定です。

<今後の研修の予定（6月分）>

第2回特別支援教育研修講座 6月12日（金）14:30～ 会場：千手中央コミュニティーセンター

※ 今後、特別支援教育コーディネーター対象の研修会も計画しています。詳細が決まり次第ご案内します。

■生徒指導の充実に向けて

今年度2回「いじめ防止対策研修会」を実施します。

いじめや不登校、暴力行為等、様々な生徒指導上の課題は、年々複雑化・多様化の傾向にあります。特に「いじめ」は、国・県にとどまらず当市でも喫緊の課題です。

今年度は、県教育委員会生徒指導課 指導主事 庭田雅範様、中越教育事務所 指導主事 田邊輝明様を講師にした研修を2回実施する予定です。その都度案内を出しますので、多くの方の参加をお願いします。



第1回いじめ防止対策研修会 6月25日（木）14:30～ 会場：千手中央コミュニティーセンター

第2回いじめ防止対策研修会 11月26日（木）14:30～ 会場：千手中央コミュニティーセンター

■市教育の重点 不登校の減少をめざして 「不登校対策研修会」

市では3年連続中学校の不登校生徒数が減少し、改善に向けて一步前進できたところ
です。しかし、小学校では逆に3年連続増加しており、まだ不登校の現状は予断を許さ
ない状況にあります。

市教育センターでは、不登校対策の充実に向け、中越教育事務所 指導主事 佐藤典人
様を講師にして、今年度も年間2回下記の予定で「不登校対策研修会」を開催します。
その都度案内を出しますので、積極的な参加をお待ちしています。

第1回不登校対策研修会 6月11日（木）14：30～ 会場：千手中央コミュニティーセンター
第2回不登校対策研修会 10月7日（水）14：30～ 会場：千手中央コミュニティーセンター

学習指導班より

第1回学力向上推進会議(5/13)より

新型コロナウイルスの影響により、前年度未履修
の学習内容を指導したり、授業形態や教育活動を制
限・変更したりせざるを得ない状況が続く中、日々
子どもたちのために工夫を凝らして授業を進めてい
ただいていることに感謝します。



5月13日（水）、各校の研究主任や学力向上担当の先生方が参加し、今年度最初の「学
力向上推進会議」を行いました。

「学力向上」は、市の小中一貫教育における3つの共通課題のうちの一つです。自己
有用感の向上についても求められているところであり、学校現場としては「学力も自己
有用感も上げろ」と言われているように感じられるかもしれません。そこで、少し整理
してみます。

私たち教員が最も力を注ぐべきことは、「日々の授業改善」です。「自己有
用感の向上」は、授業改善の視点の一つとしてとらえてください。すべての子どもたち
に学力を身に付けさせることは、私たち教員の使命です。教員が授業改善に取り組むこ
とで、子どもたちが「分かる」「できる」を実感し、自己有用感とともに学力が向上し
ていくことを目指すのです。

「家庭学習の取組がよくないから、学力が上がらない」という話を聞くことがありま
す。確かに、家庭学習の習慣定着の不十分さは、学力が上がらない要因の一つかもしれ
ません。しかし、「家庭学習をさせることによって学力向上を目指す」のは、筋が違っ
たように思います。「分かる・できる→楽しい！」授業により、「このこと
について、もっと家で調べてみたい。もっと練習して、確実に覚えたい。
できるようになりたい。」と子どもたちが心から思えば、家庭学習の取組
は改善されていくのではないのでしょうか。「先生がやれと言うのでやる」
家庭学習ではなく、「自分がやりたいからやる」家庭学習へ、そして、そ
れにつながる授業を目指していきましょう。



会議では、市の学力状況について令和元年度の各種学力調査の結果を基に説明しました。市全体の傾向として、NRT学力検査では、特に小学校低学年の基礎学力の定着が課題です。今年度の結果が届き次第、自校の状況を丁寧に分析し、自校の課題に即した方策を講じていただくようお願いします。

「内外教育」令和2年4月12日号に記載されていた上智大学総合人間科学部教育学科 奈須正裕 教授の言葉を紹介します。

【◎新学習指導要領と授業づくり 「今、取り組みたいこと」】 から抜粋
(前略)

(新型コロナウイルスの)一日も早い事態の収束と学校の通常再開を願うばかりだが、今回改めてはっきりしたのは、子どもたちは学校で学びたいと大いに願っているということだ。3月に分散登校などの工夫を施して部分的に授業を再開した学校で、このことは広く子どもたちの声や姿から繰り返し確認できた。

普段は「勉強なんて」と言っていた子どもも含め、久々に登校した子どもたちの口をついて出たのは、「勉強がしたかった」「先生やみんなとする授業は楽しい」という言葉だった。

(中略)

～子どもたちは3月の授業をほとんど受けられなかったわけで、いわば授業なり学びを渴望している。したがって、再開できた学校は、今この時にこそ飛び切りおいしくて栄養のある授業を提供したいし、休校中の学校は、それに向けての準備に校内の力を結集したい。

■サポート訪問研修 スタート

5月27日(水)に開講式を行い、今年度の「サポート訪問研修」がスタートしました。今年度は、教職2年目の先生方を中心に、29名の先生方から申込みがありました。

サポート訪問の目的や研修内容はセンター要覧の通りですが、市教育センターとしては「経験の浅い先生方の指導力向上を支援し、不安や負担を軽減し、応援する」ことが最大の目的です。先生方お一人お一人の指導力の向上こそが、子どもたちの学力向上などの課題解決への唯一の道です。

子どもたちのために、ともに頑張りましょう！



■今年度の教育センター事業について

新型コロナウイルスの影響により、既にいくつかの研修が中止・延期・変更となっています。

今後も、状況によってはさらに変更等が必要になる可能性があります。その場合はなるべく早めに連絡させていただきます。2学期以降の研修が過密になり過ぎないように配慮していきますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

学校教育課・教育センター事業のお知らせ ～6・7月～

日程	内容【会場】	備考
6月・7月	キッズ英語遊び塾（中止）	※2学期以降の実施を検討
6月	外国語サポート訪問 貝野小 6月4日(木) 西小 6月17日(水) 鑑島小 6月23日(火)	※7月はなし
6月12日(金)	第2回特別支援教育研修講座 【千手コミセン】	講師：ふれあいの丘支援学校 校長 小網 輝夫 様 対象：教職員 他
6月10日(水)	小中一貫教育統括・校内コーディネーター 研修会 【千手コミセン】	対象：小中一貫教育統括・校内コーディネーター
6月11日(木)	不登校対策研修会 【千手コミセン】	講師：中越教育事務所 指導主事 佐藤 典人 様 対象：不登校担当職員（各校1名以上）
6月19日(金)	新採用・若手事務職員研修 【川西庁舎】	講師：学校教育課・教育総務課の担当者 対象：3年目までの事務職員
6月25日(木)	いじめ防止対策研修会【千手コミセン】	講師：県教育委員会生徒指導課 指導主事 庭田 雅範 様 対象：教職員、生徒指導担当、管理職他
7月27日(月)	教育支援員研修会 【千手コミセン】	講師：市教育センター職員等 対象：教育支援員
7月30日(木)	図書委員会サミット 【情報館】	対象：市内小中学校 図書委員等 内容：実践発表（飛渡第一小、吉田中）、 情報交換

【表紙写真の説明】

まつのやま学園つくし総会は、児童会・生徒会にあたる総会です。新型コロナウイルス感染防止のため、児童生徒は一斉に集まらず、校内放送を活用して各教室で行われました。事前に各クラスでは提案書をもとに話し合い、質問を出し、委員会等の代表からその回答を含め説明がなされました。児童生徒は、静かに放送を聞いていましたが、全校が一堂に会してできない寂しさを感じているようにも思いました。

各学校でも「3密」を避け、工夫した取組により活動等を行っていることと思います。一日も早く、今までの学校生活が戻り、子どもたち同士が元気にかかわる姿が見られることを願っています。